

エチオピア ムルース家のはちみつのためのラベル作成

実践場所	高知県	高知県立高知南高等学校	実践者	浪越 綾	
対 象	高校 1 学年		時間数	10 時間(制作時間含む)	
担当教科	芸術:美術		実践教科	美術 I	
ねらい	<p>○エチオピアについて知り、文化や生活などを理解する。</p> <p>○他国について、興味関心を抱く。国際協力について知識を得る。</p> <p>○デザインが果たす役割について理解を深め、制作を通して国際交流を図る。</p>				
実践内容	回	プログラム		備 考	
	1	【エチオピア共和国について知る】 ・エチオピアの場所(世界地図を描く)。 ・エチオピアのイメージを共有する。 ・エチオピアの基礎情報を得る。 ・首都と地方の実態について考える。		パワーポイント プリント パワーポイント	
	2	【題材を理解する】 ・コーヒー農家ムルース家のはちみつについて知る。 ・ムルースさんの言葉について考えを深める。 「Don't give me a fish. Please teach me how to fish.」 ・青年海外協力隊員について知る。			
	3	【ラベルデザインを考える】 ・ムルース家のはちみつを試食する。 ・アイデアスケッチから下絵を描くために必要な資料について考える。		はちみつ 画像資料	
	4~7	【木版画制作】			
	8・9	【木版画刷りの作業】 ・協調学習により、刷りの過程を理解する。		プリント	
	10	【作品鑑賞・展示】 ・作品についての感想、ムルースさんへのメッセージを書き、制作を振り返る。			
	成 果	・作品制作を通して、遠く離れたエチオピアで生活をする人々のことを身近に感じることができていた。生徒たちに「知ることの大切さや面白さ」について、教師海外研修で経験したことをもとに伝えることができたのではないかと考える。			
	課 題	・国際理解教育の活動を、年度が超えても継続させていくことが課題である。芸術の授業での題材設定の可能性は十分にあると考えるが、時代の流れに沿った情報収集に努めていかなければならない。			

[授業実践の詳細]

1 時限目「エチオピア共和国について知る」

1 子どもの活動の流れ

- ①エチオピアの場所(世界地図を描く)。
- ②エチオピアのイメージを共有する。
- ③エチオピアの基礎情報を得る。
- ④首都と地方の実態について考える。

この時限のねらい

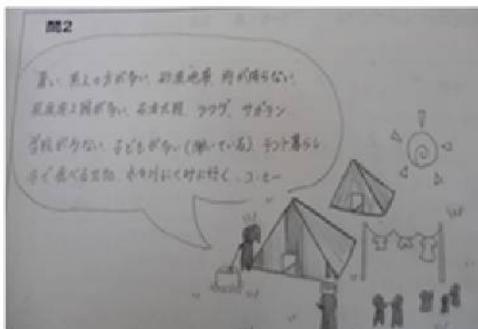
- ・ アフリカやエチオピアに抱くイメージを共有し、エチオピアについて知る。
- ・ 知ることの大切さに気付く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇生徒が互いに、物事に対して固定観念があることに気づきがあった。
- ◇エチオピアの風景と高知の風景の共通点に気づくなど、発見がありエチオピアの生活についてイメージを膨らませることができていた。
- ◇エチオピアや人々の生活について関心を抱くことができていた。
- ◇エチオピアの風景の美しさや、都市や地方が抱える問題について考えることができていた。

3 使用した教材

<教材1> イメージマッピング



<教材2> エチオピアについてパワーポイント抜粋



2 時限目「題材を理解する」

1 子どもの活動の流れ

- ①コーヒー農家ムルース家のハチミツについて知る。
- ②ムルースさんの言葉について考えを深める。
「Don't give me a fish. Please teach me how to fish.」
- ③現地で活躍をしている、青年海外協力隊員について知る。

この時限のねらい

- ・ ムルース家のはちみつのためのラベル制作を行うことを理解する。
- ・ ムルースさんの言葉について考える。
- ・ 青年海外協力隊員について理解を深める。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇遠く離れたムルース家とはちみつについて知り、写真や出会いの話から人柄や、家族の絆の深さを感じ取っていた。
- ◇現地で活躍をしている、日本人の存在を知ることができていた。
- ◇ムルースさんの言葉から国際協力の在り方について考えることができていた。
- ◇本題材について理解し、意欲的に制作に取り組もうとする姿がみられた。
- ◇電気やガス、水道などに不便さを感じるだろうがエチオピアに行くことで良い経験ができると思ったので行ってみたいと思った。・自分の全く知らない世界を見たり、学んだ様な気がした。考え方が違ったり、思いが違ったり、感じ方が違うのは面白いことだと思う。他の人の感じ方を学び、自分の考え方を改めて見るというのも良いなと思ったなど、授業を通して関わりを持てることに大変前向きな感想が多くあった。

3 使用した教材

<教材3>エチオピアから持ち帰った、ムルース家のはちみつと容器



3 時限目「ラベルデザインを考える」

1 子どもの活動の流れ

- ①ムルース家のはちみつを試食する。
- ②アイデアスケッチから下絵を描くために必要な資料について考える。

この時限のねらい

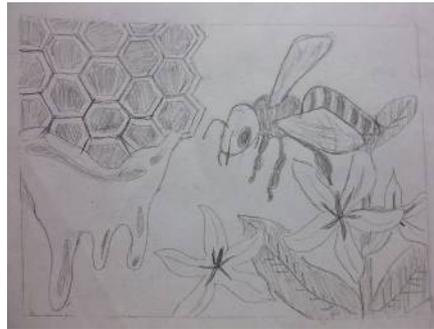
はちみつを試食し、はちみつが作られた背景をイメージし、アイデアに活かす。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇はちみつの味の濃厚さに驚きがあった。パンにつけて食べたら美味しいだろうなどと、和気あいあいとした雰囲気を作れた。
- ◇ムルースさんのはちみつにラベルをつけるとしたら、というイメージにスムーズに取り掛かることができた。
- ◇エチオピアの民族衣装や、現地でしか見られない動物、コーヒーの花や実などの資料が必要など、意見がでてきた。

3 使用した教材

<教材4>生徒のアイデアスケッチ



4-7 時限目「木版画制作」

1 子どもの活動の流れ

- ①版画の特性を理解するために、消しゴムはんこで自分の版を制作する。
- ② アイデアスケッチをもとに下絵を描く。
- ③ 木版の特性を考え、彫刻刀で彫りを進める。

この時限のねらい

- ・制作過程にそって、木版画を作成する。

2 子どもの活動の成果・反応

◇彫刻刀の効果的な使い方について考え、制作を行うことができた。

◇木は木目によって彫りにくい箇所があるため時には悪戦苦闘し、完成させる喜びを感じることができていた。

8-9 時限目「木版画刷りの作業」

1 子どもの活動の流れ

- ①協同学習により、刷りの過程を理解する。
- ②他者の作品の良さを感じ取る。
- ③作品を完成させる。

この時限のねらい

- ・刷りの作業を協力して行う。
- ・作品を完成させる喜びを感じ取らせる。

2 子どもの活動の成果・反応

◇協同学習の活動を通して、刷りの作業について理解を深めることができていた。

◇協力して、刷りの作業を行っていた。

◇できあがる作品を互いに評価することができていた。

10 時限目「作品鑑賞・展示」

1 子どもの活動の流れ

- ① 作品についての感想、ムルース家のみなさんへメッセージを書き、制作を振り返る。
- ② 他者の作品の良さを感じ取る。

この時限のねらい

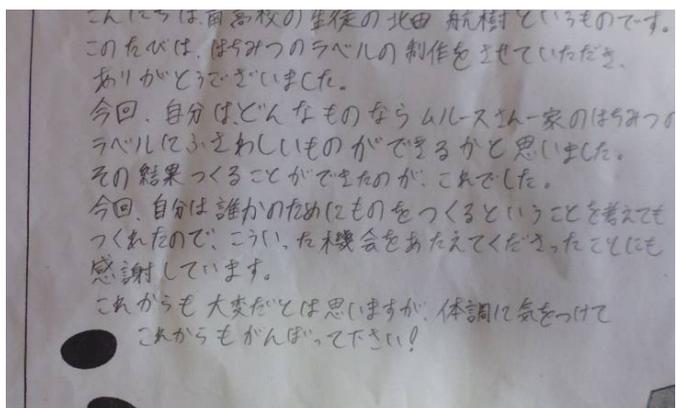
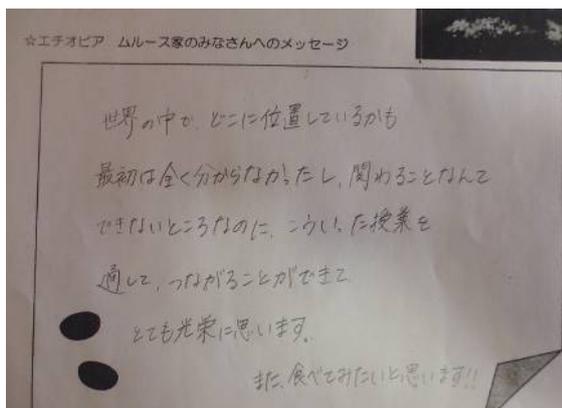
- ・ 作品を鑑賞し、制作を振り返る。
- ・ ムルース家のみなさんへメッセージを書き、本題材の意味を考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 制作意図や、出来上がった作品の感想を書くことができた。
- ◇ 木版画の刷りの作業では協力して制作をすることができたことを、感想で評価する声が複数あり他者の作品の良さを感じとることにもつながっていた。
- ◇ ムルース家へのメッセージでは、はちみつが美しかったこと、試食をしたときの感想や、ラベルデザインで関わりを持てたことについてよい勉強になったという言葉がでてくるなど、エチオピアのムルース家のことを考えることができていた。

3 使用した教材

<教材5> 振り返りシート ムルース家のみなさんへのメッセージ



■ 全体を通して

1 授業の様子

<写真1> 刷りの様子



<写真2> 作品展示風景



<写真3> 生徒作品1



<写真4> 生徒作品2



2 参考文献・資料

なし